

2. 火山の概況 (平成 20 年 5 月 16 日 ~ 平成 20 年 5 月 22 日)

いずれの火山も予報警報事項に変更はない。

5 月 22 日現在の火口周辺警報、噴火警報及び噴火予報等の発表状況は以下のとおり。

- 火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）
桜島
- 火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）
三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
- 火口周辺警報（火口周辺危険）
硫黄島
- 噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報
福徳岡ノ場
- 噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）
樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島
- 噴火予報（平常）
上記以外の火山



図1 火口周辺警報及び噴火警報発表中の火山の噴火警戒レベル等の状況(5月22日現在)

噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており(本概況末の対応表参照)、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となる(現在、噴火警戒レベルを導入している火山は18火山である)。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

みやけじま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

22 日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 2,300 ~ 2,900 トン（前回 15 日、2,800 ~ 3,400 トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

いおうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降見られていた島全体が大きく隆起する地殻変動は、5 月に入って停滞している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくおかのば

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、17 日、18 日、19 日及び 20 日に爆発的噴火が発生した。これらの噴火で噴煙が火口縁上 700 ~ 2,400m まで上がり、6 ~ 7 合目（昭和火口からの水平距離は概ね 200 ~ 500m）まで大きな噴石¹⁾の飛散が確認された。火砕流の発生はなかった。このほかにもごく小規模な噴火が時々発生した。

南岳山頂火口では 20 日 00 時 22 分に爆発的噴火が発生し、火口縁上 2,000m まで噴煙が上がり、6 合目まで大きな噴石¹⁾の飛散が確認された。南岳山頂火口での爆発的噴火は 2008 年 1 月 7 日以来である。

20 日、海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの観測では、南岳山頂火口及び昭和火口の火口内の温度が高い状態であった²⁾。いずれの火口内にも溶岩は認められなかった。

火山性地震は少ない状態が続いている。

国土地理院の GPS 観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では、活動が活発化するおそれがあるので、南岳山頂火口及び昭和火口から 2 km 程度の範囲で大きな噴石及び火砕流に引き続き警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき³⁾）に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、それより小さく風の影響を受ける噴石は、例えば「風の影響を受ける小さな噴石」という表現を用いる。

2) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約 1 km の範囲に大きな噴石¹⁾を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

【参考】 噴火警報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード*
噴火警報	レベル5（避難）	居住地域厳重警戒**
	レベル4（避難準備）	
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	入山危険
	レベル2（火口周辺規制）	火口周辺危険
噴火予報	レベル1（平常）	平常

* 海底火山に対しては、噴火警報（周辺海域）にキーワード「周辺海域警戒」を付して発表する。

**居住地域が不明確な場合は「山麓厳重警戒」と記載する。